

はなみずき

(病院だより)

2024年9月

発行

山梨大学
医学部附属病院

就任あいさつ

初期救急医療センター長 森口 武史



この度、2024年5月17日より初期救急医療センターの運営を開始しました。これは大学病院としては異例の取り組みであり、現在も運営について試行錯誤が続いております。

当センターは、18時から23時までの時間帯に初期救急患者を診療することを目的としています。ERナース、学生アルバイト、研修医、原則として院内医師1名と主に協力いただく開業医1名という体制で運営しています。医師は内科系と外科系のそれぞれ1名を配置するように調整します。学生アルバイトは電話

オペレーターや助手業務を担当し、チーム全体のサポートを行います。

当センターは、主に一般的に見られるcommon diseaseに対応するものです。短い診療時間で、多くの患者から重症例を見逃さないようにすることが求められ、独特の難しさがあります。

昨今、地域の救急医療体制は脆弱化しており、二次医療機関への紹介が円滑に進まないケースも見受けられます。しかしこの初期救急医療センターを大学病院で運営することが、持続可能な体制構築の第一歩であると考えております。

皆様のご支援とご協力を賜りながら、円滑に運営されるよう、全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

子宮内膜症ケアセンター長 吉野 修



この度、子宮内膜症ケアセンターのセンター長を拝命いたしました吉野修と申します。

私は、この新たな職務に対し、大きな責任とやりがいを感じております。子宮内膜症は月経痛や不妊症を引き起こし、女性の生殖年齢の約10%が罹患

する非常に頻度の高い疾患です。多くの方が子宮内膜症を産婦人科の疾患と認識されていますが、この疾患は消化管・泌尿器系、呼吸器系にも影響を及ぼし、さらに近年の研究では全身性の慢性炎症や精神的不調を引き起こすことが明らかになっています。もはや産婦人科だけで完結することが

できない疾患と言えるでしょう。

これらの現状を踏まえ、当センターでは産婦人科を窓口として、呼吸器内科・外科、消化器内科・外科、泌尿器科、麻酔科(ペインクリニック)、精神科、リハビリテーション部門等との密接な連携を構築し、領域間の患者紹介および集学的治療をスムーズに行う体制を整備いたしました。特に治療においては、運動療法が新しい道を拓くと期待されています。この総合的なアプローチにより、迅速かつ的確な診断と治療を提供することを目指しております。

すなわち、当センターでは子宮内膜症に対して、産婦人科に留まらない多角的な視点からの診察・治療を行ってまいります。このような体制は、日本初の試みと自負しております。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

がんセンター長 市川 大輔

「最新・最適ながん医療の提供を目指して」



近年、がんに対する医療は多様化しながら急速に進んでいます。当院がんセンターでは、各診療科のエキスパートが診療科の垣根を越えて横断的に協力し、安全性を担保しながら世界レベルのがん医療を提供しています。診療系統では、ロボット機器を用いた精緻な低侵襲手術を含む最先端の外科治療を実践しており、先進的な薬物療法や最新機器を用いた高精度放射線治療を組み合わせた集学的治療も積極的に取り入れています。また、各臓器別のキャンサーボードや自施設で開催準備を進めている遺伝子パネル検査後のエキスパートパネル等を通じ

て、大学病院ならではの多職種の専門家が個々の症例毎に討議することで、最適な個別化医療を提供できる体制を構築しています。希望される患者さんには、産婦人科のご協力のもと、がん生殖医療にも積極的に取り組んでいます。

一方で、支援系統では、がん患者さんやご家族が、がん治療中に感じる疑問や悩みに対して、がん相談支援や緩和ケアチームと連携し、安心してより良い医療を受けることができる体制を整えています。県内唯一の小児がん連携病院として小児・AYA 世代部門を設置し、地域がん診療連携拠点病院としてがん教育研修やがん登録も積極的に行っています。

今後も最先端のがん医療を提供することができるよう、がんセンター各部門が力を合わせて努力してまいります。

就任あいさつ

臨床教育部 臨床研修センター長 矢ヶ崎 英晃



2024年4月より臨床研修センター長を拝命いたしました矢ヶ崎です。平素より研修医のご指導とセンターへのご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

当院では60名を超える研修医が、臨床の現場でon the job trainingを行っています。初期臨床研修は、医師としての第一歩を踏み出す重要な時期であり、基礎的な医療技術や知識を実践の場で習得し、患者さんとの信頼関係を築く上で欠かせない経験です。

当院の研修の特徴は、自由度が高く、多彩な診療科と指導医のもとで経験を積める環境が整っています。各診療科の専門診療を学び、救急外来、ER、初期救急医療センターで患者さんのファーストタッチに携わ

ることで、現場での貴重な経験が得られています。また研修医勉強会、ICLS、CVC研修会などの機会があり、大学病院のメリットを最大限に活かした研修を行っています。

医学教育の変革期にあたり、今後、「知識」を得る教育から「技能」「態度」の向上を目指し、医療・研究・教育でのキャリア形成を考えていくことが必要になります。医学生や研修医を含む教育的な環境は、医療チーム全体のチームワークを強化することに繋がります。良い教育体制により大学病院全体が活性化することを期待しています。

私自身もまだまだ未熟であり、多くの方々にご指導をいただきながら臨床、研究、教育それぞれの分野で精一杯努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

就任あいさつ

臨床教育部 臨床実習センター長 川端 健一



2024年4月より臨床実習センター長に就任しました川端健一と申します。私は2019年、当センターの副センター長を拝命し、前センター長の鈴木章司先生にご指導賜りながら、本学における質の高い臨床実習を目指し

取り組んでまいりました。しかし、私がこの業務を担当したほぼ同時期に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始め、「コロナ禍で如何に臨床実習を実施していくか」という命題に暗中模索した毎日でした。そんな時にも多くの先生や病院スタッフからの確なアドバイスや心強い励ましをいただき、今も感謝しています。

当センターは、医学科、看護学科の学生および学外からの医療系実習生の臨床実習・臨地実習を統括しています。医学科で

は医療系大学間共用試験に合格し、公的な資格「臨床実習生（医学）」を有する医学生が指導医のもとで医療スタッフとして参加する「診療参加型臨床実習」を推進しています。

質の高い医療教育を実施するためには、臨床実習内容をさらにブラッシュアップするのはもちろんですが、実習に入る前の「臨床準備教育」がとても重要であると私は考えております。なぜなら、充実した臨床準備教育を行うことで、公的試験に合格した臨床実習生は附属病院で直ちに診療参加型臨床実習をスタートすることができるからです。

有意義な臨床教育は、医療体制の基盤となり、本学附属病院診療科の入局者を増やし、かつその臨床能力を充実させ、当院の診療体制の向上に繋がります。これにより私は山梨県の地域医療に貢献していきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

臨床教育部 医療スタッフ研修センター長 川井田 博充



2024年1月1日より臨床教育部医療スタッフ研修センター長、4月1日より同センター特任教授を拝命いたしました。

現在、病院機能評価の評価項目として、「職員への教育・研修が計画に基づいて継続

的に行われていること、院外の教育・研修機会への参加が支援されていること」が求められています。当センターは、医師や看護師を除いた co-medical の知識や技能の向上、新規医療技術導入のための研修や資格の維持および取得を支援することを目的に、2021年に新たに設置されました。山梨県の中核病院として、高度な医療を提供し

続けるために、多くの職員の方々へ支援を行えるよう、努めてまいります。また、病院内外での講習会や研修会、セミナーなどの企画、開催にも携わっていききたいと考えております。

これまで第一外科の医局員として、臨床実習、臨床研修、専門医キャリア支援、看護師の特定行為に関する業務等に従事してまいりましたが、今後は臨床教育部の立場から、より多くの職種の方々と関わることとなります。長年外科医として学んできた知識とは異なる事柄が求められますが、特定共同指導や病院機能評価等を通じて培ってきた関係性を生かしつつ、大学病院に求められる高次機能、先進医療に貢献できるよう、尽力したいと思います。ご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

山梨県地域医療支援センター長 土屋 恭一郎



2024年度より山梨県地域医療支援センターを担当させていただきます。当センターは、専門医キャリア支援センターが担う地域枠医師等のキャリア形成支援と一体的に、地域の医師不足医療機関における医師確保を支援する組織です。

2006年の新医師確保総合対策および2008年の本学医学部における地域枠創設以降、本県の医師数は増加を維持しています。しかし、全県単位では医師数の絶対的不足は解消されつつあるものの、中北医療圏が医師多数区域である一方、峡東および峡南医療圏では更なる医師数の増加が求められており、医師偏在の解消は道半ばです。加えて、診療科単位で各医療圏に十分な医師数

を持続的に確保するためには、各専門研修プログラムとの連携などの大きな課題も残されています。

また、本県の人口は減少の一途であり、高齢化の進行が見込まれます。中長期的な医療ニーズや医師の働き方改革を考慮すると、今後の医療需要は減少する見通しです。医療需要の量および質的变化に対応するためには、本学医学部医学科の入学定員や地域枠の運営の検討を含めた、将来を見据えた医療体制整備が必須です。山梨県の医師数増加を念頭に活動してきた当センターの役割は、社会と時代の要請に適応するための転換期を迎えていると言えます。

皆様のご指導を賜りながら、本県の医療体制の更なる発展に少しでも貢献できますよう、全力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

臨床研究連携推進部長 望月 修一



2024年1月1日付けで臨床研究連携推進部長として着任いたしました望月修一です。私は下部町（現身延町）の出身で1995年に本学医学科を卒業しました。卒後は人工心臓開発の基礎研究・開発に従事した後、2012

年から独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）において、医薬品医療機器の承認審査として主に治験における事前のプロトコル相談や有効性安全性評価に携わりました。2014年からは国立国際医療研究センター臨床研究センター医療情報解析研究部で、治験や臨床研究の支援・教育、データセンターの管理などを行いました。実に、30年ぶりに山梨に戻ってきたことになります。

臨床研究連携推進部は、山梨大学医学部における臨床研究の活性化や治験の推進を図るべく設置されました。医学の分野では日本の高いレベルの基礎研究を臨床応用に繋げる努力が内外から求められています。大学病院は、治験や臨床研究により基礎研究の成果を臨床応用から社会実装するための中心的な役割を担うことが求められています。治験を取り巻く環境は厳しいものですが、先生方の臨床研究に対する高い熱意を感じています。この意欲を後押しし、少しでも本学や山梨地域の臨床研究や治験を活発にするために、皆様のお力添えをいただければ幸いです。前任者の岩崎副学長が作られた基盤をもとに、本学の治験・臨床研究のさらなる活性化に努める所存でございます。改めてご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

病院経営管理部長 小林 美亜



2024年5月より、病院経営管理部長を拝命いたしました小林美亜と申します。病院経営管理部は、当院の経営を安定させ、質の高い医療を提供するための戦略を立案し、実施する部門です。具体的には、病院経営企画課や医事課等の事務部門と連携し、人材整備、機器整備、施設整備など、あらゆる面から病院の運営や経営状況を分析し、経営の最適化を図るための様々な活動に取り組んでいます。

現在、診療報酬の引き下げや医薬品費の高騰

などにより、厳しい経営環境に直面しております。また、運営費交付金が抑制される中で、自己収入の増収も迫られています。様々な課題が山積しておりますが、病院運営を効果的かつ効率的に行うための体制整備を通じて、当院の基本理念である「すべての患者さんに安心を」を推進できるよう、持続可能な経営を実現し、特定機能病院としての役割を果たすために全力を尽くしてまいります。特に、地域における医療機関と介護施設の連携を強化し、新入院患者数の増加と入院期間の適正化を図るなど、増収に努めるとともに、コストの適正化にも取り組んでいく所存です。そして、目標を達成するための基盤づくりに取り組んでまいります。今後とも、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

地域医療学・総合診療学講座教授 針井 則一



2024年4月より地域医療学・総合診療学講座の教授を拝命いたしました。国立大学初の地域医療講座として開設された歴史をもつ当講座の役割は、医学生が大学病院で経験することのできない地域医療、医師不足や偏在とそれに関する

諸問題などを学び、さらに接遇や倫理的な姿勢を身に着け、それぞれの適性を知り、進路選択の参考となる卒前教育を提供することです。1年生を対象としたECE実習では、看護師をはじめとする他職種連携の重要性を学び、2年生のトリアージ研修では、災害時の総合病院の役割について学内外の参加者とともに考える機会を設け、3年生の救急車同乗実習では、県内16の消防本部で24時間救急車に同乗し、病院前救急医療を学びます。そして、5～6年生を対象としたACC総合診療実習では、地域の基幹病院でプライマリ・ケア実習を通して、地域医療の現状と課題を学びます。それぞれの実習は文献を読むことでは代替することはできません。医学生

には自らの体験を越えるものは存在しないという気構えで、実習と向き合うよう指導することを常に心掛けています。

大学病院は高度先進医療の専門医療を提供する場ですが、地域のニーズ、プライマリ・ケアの教育として、2016年9月に総合診療部が開設されました。外来診療における臨床推論と各専門診療科との連携はプライマリ・ケアに必要なスキルであり、さまざまな感染症をはじめ、各領域にまたがる疾患、精神科領域など多岐に亘り、総合診療外来で経験すべき症例を網羅しています。

今後は、コモンディジーズを中心に総合的に患者や生活者を診ることをモットーに、外来診療に加えて入院診療と卒後教育も行い、内科専門医や救急科専門医とダブルボードを持つ総合診療医を育てます。さらに、大学病院以外で研修を希望する医師に対応した研修プログラムを構築したいと考えています。

以上のように、本学のキャッチフレーズである「地域の中核・世界の人材」を育成するため、今後も各部署・部門と連携し、卒前・卒後教育ともに質の高い教育を志してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

看護部長 杉田 俊江



2024年4月1日付で看護部長を拝命いたしました。私は、1991年に旧山梨医科大学医学部附属病院に入職し、主に手術部を中心に、外科・内科病棟および救急外来で勤務してまいりました。

近年、医療の高度化・複雑化や患者ニーズの多様化により、看護業務はより複雑かつ煩雑化しています。そのため、業務改善や業務の効率化を図り、看護職が直接患者さんに関わる時間を確保することで、正確な状況把握から早期への介入を行い、安全な看護に繋がりたいと考えています。また、24時間看護を提供する私たち看護職は、患者さんとの対話を大切にしています。対話を通し寄り添うことで、

敬意のこもったケアを行い、その人らしさを尊重した「安全で心安らぐ患者中心の看護の提供」を推進したいと考えます。さらに、看護の役割発揮につながる人材育成として、多くの専門看護師や認定看護師が活躍する様々な医療チーム活動、看護師や助産師が主体となって行う看護外来や院内助産、特定看護師の育成など、看護の専門性を活かした活動を強化してまいります。

看護職の活動強化のためには、安心して働くことができる職場環境を整える必要があります。職場の心理的安全性を高めつつ、休暇取得の推進や超過勤務の削減に取り組み、健康的な環境作りを目指します。

院内各部署の皆様方と協力しながら、より良い医療・看護の提供に尽力していく所存です。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

4階北病棟看護師長 長澤 良美



2024年4月1日付で4階北病棟看護師長を拝命いたしました。4階北病棟は産科単科の病棟で、地域周産期母子医療センターとして、県内全域から母体搬送を受け入れながら、妊娠・分娩・産褥の管理を行っています。近年は、

身体的な合併症のみならず、社会背景や育児環境に問題を抱える妊産褥婦も多く、産後の支援がスムーズに行えるよう妊娠期から地域と連携を図り、在宅支援室、退院支援室、NICU、GCU、精神科と協働し、助産ケアを実施しています。ハイリスクを伴いながらも安全、安心な分娩となるように、スタッフが日々の症例から経験を積み、病棟全体で取り組んでいます。様々な分娩がありますが、新たな生活のスタートができ

るよう妊産褥婦に寄り添った助産ケアを目指しています。

また、スタッフが自分の仕事にやりがいと誇りを持ちながら働き続けられるための教育や環境作りを目標として、取り組んでいます。病棟内のスタッフのみならず、医師や他セクションとも信頼関係を構築し、この病院が「好き」と思える職場を目指します。経験が少なく、未熟ではありますが、スタッフと共に成長していきたいと思えます。今後ともご指導よろしくお願いいたします。



「看護功労者」「県民の看護師さん」の受賞

2024年5月17日、山梨県看護大会が山梨県および山梨県看護協会等の主催により甲府市内で行われ、当院の大門恵美副看護部長、伊藤雅美副看護部長が「看護功労者」を、武田陽子看護師長が「県民の看護師さん」を受賞しました。おめでとうございます。

<受賞者コメント>

◇ 看護功労者受賞 ◇ 副看護部長 大門 恵美

このたびは、「看護功労者」の表彰を受け、大変光栄に思います。これまで支えてくださいました諸先輩方や同僚、仕事に理解を示してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。看護の仕事は時に厳しいものですが、患者さんと共に歩む喜びや共に看護を実践してきた仲間の存在は、長年にわたり看護師を続けてきた私の支えとなりました。現在、総務担当副看護

部長として、看護職員の労務管理に携わっております。今後も看護職員の笑顔と健康を支える存在であり続けたいと思います。改めて名誉ある受賞に感謝し、山梨大学医学部附属病院の職員として精進してまいりますので、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



◇ 看護功労者受賞 ◇ 副看護部長 伊藤 雅美

この度、看護功労者知事表彰を賜り大変光栄に存じます。私が看護師として当院に採用いただいてから38年が経ちます。その間、厳しくも真摯に向き合ってくくださった諸先輩方、支え励ましてくれた同僚、面倒見の良い後輩、そして、心の広い患者さんに恵まれ、一心に看護師として従事してまいりました。

特に GRM として医師、薬剤師、

技師、事務職の皆さまと、患者安全のために尽力できたことは看護師人生の宝物となりました。多くの皆さまと対話を重ね、ご教示いただきながら、未熟であった私が大きく成長できたことに感謝申し上げます。今後ご指導を賜りながら、皆さまにそのご恩を返せるよう努力してまいります。この度はありがとうございました。



◇ 県民の看護師さん受賞 ◇ 医療チームセンター看護師長 武田 陽子

この度「県民の看護師さん」の受賞を賜り、大変嬉しく思っています。看護部をはじめ、これまで支援していただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

私は昨年からは緩和ケアチームで従事しています。緩和ケアチームは、患者さんの苦しみを和らげ、最期までその人らしく生きることを支えるため、患者さんや家族の苦痛に真摯に向き合い、それぞれ

の職種が力を発揮し、協働しています。

看護師は日々患者さんや家族のからだと心のケアを行っています。ケアを行う看護師もまた、苦悩を抱えています。緩和ケア認定看護師として看護師の苦悩も理解し、支援できるよう自己研鑽に努め、看護の質の向上に貢献していきます。



第78回国立大学病院長会議を開催

総務課長補佐 狩集 広行

令和6年6月13日(木)、14日(金)の2日間にわたり、甲府記念日ホテルにおいて、「第78回国立大学病院長会議」が本学を当番校として開催されました。当日は、厚生労働省と文部科学省から来賓を迎え、全国国立大学42大学44病院の病院長、事務部長ら総勢186名が出席しました。



開会の挨拶をする木内病院長

総会1日目は、当院の木内博之病院長が開会の挨拶を行い、議長として議事進行を務めました。長崎幸太郎山梨県知事からのビデオメッセージ、本学中村和彦学長の挨拶の後、「令和6年度感染対策相互チェックの実施について」や「令和6年度特定機能病院間相互のピアレビューの実施について」などの協議事項等について活発な議論が交わされました。続いて、「大学病院を取り巻く



挨拶する中村学長



全体会議の様子

「大学病院を取り巻く諸課題について」(文部科学省高等教育局医学教育課 俵幸嗣課長)、「国立大学附属病院の施設整備について」(文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室 小林克嘉室長)、「医療機関の働き方改革を巡る最近の状況につい

て」(厚生労働省医政局・労働基準局 坪井宏徳医師・看護師等働き方改革推進官)と題した講演が行われました。

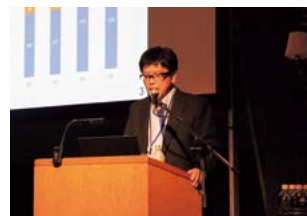
その後、3つのテーマ(「医師の働き方改革施行後の状況」「2024年度診療報酬改定を踏まえた病院経営の現状と課題」「これからの高度医療人材養成」)について、それぞれ2グループに分かれてグループディスカッションを行いました。

懇親会では、山梨の郷土料理やワインを振る舞い、親睦を深める機会となりました。また、医学部交響楽団が歌劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第一幕への前奏曲の演奏を披露し、大いに盛り上がりました。最後に、次期当番校である長崎大学の尾崎誠病院長からご挨拶をいただき、盛会のうちに終了となりました。

2日目は、前日に実施したグループディスカッションの結論について、それぞれのグループから報告があり、活発な意見交換がなされ、無事日程を終了することができました。



講演する文部科学省の俵医学教育課長



講演する文部科学省の小林整備計画室長



講演する厚生労働省の坪井医師・看護師等働き方改革推進官

警備担当職員のユニフォームができました

これまで他の職員との判別がつきませんでした。が、患者さんにも一目でわかるように夏は紺のポロシャツ、冬は紺のブレザーに専用ワッペンを装着し、日々、患者さんへのサポートや医療従事者への支援を行っております。患者さんと病院の安心、安全のため、今後の活躍にご期待ください。

